

**自然教室だより**

辻本 信一

**12月・冬の奈良公園 ムササビ観察会 報告**

12月25日(月)午後4時、本格的な冬を迎え一段と寒さを増したこの日、ムササビの雄姿を一目見ようと近鉄奈良駅行基菩薩前には、13名の参加者が集まった。



当日は朝から小雨がぱらつくあいにくの天気、参加者も数人では

【行基菩薩像前に集合】

と危惧していたが、たくさんの参加者を得て勇気百倍。早速、観察ポイントと思しき東大寺鏡池東側にみんなで移動。ムササビが活動を始める日没までは鹿への餌(ドングリ)やりで時間つぶし。雨がひとしきり降った後、午後5時以降は風も止み条件は整った。雨上がりの無風状態は吉なのか凶なのか初めての事で分からないが、風の強い日にはムササビは飛ばないと聞く。

3班に分かれ網をはり待つこと約一時間。大仏殿参道で「ギーギー」とも「ジージー」ともとれる大きな鳴き声を耳にする。カラスやカエルではない。まして虫の鳴き声でもない。昔の人がこの声に「鶴(ヌエ)」の鳴き声を感じたというのに納得がいく奇妙な声。その声の方に歩を進めると、東大寺ミュージアム北側の小川沿いに生える大きな杉の木に行き当たった。それでも15分、20分、鳴き声ばかりで動きは見られない。

すると近くを境内警備の方が通ってこられた。「今日あたりムササビは見られそうですか?」と尋ねると「さっきからよく声がしてますね。でも飛ぶ姿はなかなか見ません。私もこれまで一度見たきりです。」のご返事。それには一同ガッカリ。するとどうだろう、その話の最中に黒いものがサーと杉の上から隣の木に下降。東大寺ミュージアムの建物の壁がスクリーンの役目をし、ムササビの姿をしっかりととらえることができた。大きさは小学生が使う座布団ほどこか、意外と大きい。

感動のあまりその余韻はいつまでも残り、「見た」「見た」「見た」とみんな興奮状態。その間もムササビの大きな鳴き声は止まず、どの辺にいるかはまだ見当がつかず。「また飛ぶぞ」「また飛ぶぞ」と皆で木の上を注視。すると今度はもと来た杉に更によく見える格好で飛行。完璧に見たと言う人も出てきた。30分ほど後、「もうお開きにしましょうか?」と言っていたら、今度は別のムササビが我々の後ろから飛来。同じ杉の木に飛びつきそのまますると駆け登る。木の上ではこちらを観察するかのように赤い目を光らせているのがしつかりと確認することができた。



【ムササビ発見】

運よくムササビに出会えた私たちは、身近にいるというだけでうれしい気持ちにさせる不思議な動物の存在を実感し、満足のうちに観察会を終了した。

**帝塚山小学校アフタースクール 大淵池公園自然観察会 報告**

自然教室チームでは、ボランティアインフォメーションセンターの紹介で帝塚山小学校1、2年生対象のアフタースクールより依頼を受け、12月19日(火)大淵池公園にて



【大淵池公園自然観察会】

自然観察会を実施した。これまでこの種の観察会は、先方経験なく、参加した13名の子供たちも大喜び。葉っぱへの字書き、葉っぱ笛、ドングリの話に興味津津。真剣に話を聞いてくれ、こちらもついつい熱が入りました。

1時間半ほどの時間はアツという間に過ぎ、最後に定番の鹿の折り紙をみんなにプレゼント。こちらは大変喜ばれ、好感触を得て、これからも度々お願いしたいの声を受けました。

子供たちの喜ぶ姿に寒さを忘れ、元気をいっぱい貰い、楽しい一日となりました。